

## 地域の概要

## 1. 基礎データ

宮城県

人口：2,214,330人

(R7. 3. 31現在・住民基本台帳)

面積：7,282.30平方キロメートル

過疎地域等指定：過疎(16市町)

山村(11市町24地域)

高齢化率：29.7%(R7. 3. 31現在)

交通会議開催数：3回

(R7. 4 ~ R8. 1)

## 2. 公共交通の概況

## 【鉄道・BRT】

運 行：東日本旅客鉄道(株)、阿武隈急行(株)、仙台空港鉄道(株)

路 線：13路線、新幹線1路線

## 【乗合バス】

## ①路線バス

運 行：仙台市交通局、宮城交通(株)、(株)ミヤコーバス 外

路 線：1,934系統(令和6年度)

## ②コミュニティバス

運 行：大新東(株)外(市町村から受託し運行)

路 線：187系統(令和6年度)

## 【乗合タクシー】

運 行：24市町村

エリア：53地区(R7. 4. 1現在)

## 【自家用有償旅客運送】

運 行：16市町村、1団体(R7. 11. 25現在)

形 態：交通空白地有償運送

エリア：94路線・地区 ※上記乗合タクシーと重複あり

## 【離島航路】

運 航：網地島ライン(株)、シーパル女川汽船(株)、塩竈市

路 線：3路線

## 3. 公共交通の問題点

## &lt;課題1&gt;住民生活を支える広域的な地域公共交通の適切な維持・確保

5年後の令和12年には県民人口が約3%減少。事業者の収益を支える通勤・通学者数の減少が予想され、現状のサービス水準の維持が困難になる可能性がある。

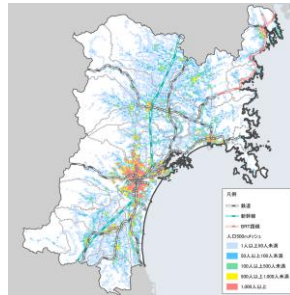


図 宮城県の人口推移(現状・推計)

図 計画の対象区域

## &lt;課題2&gt;移動に制約を抱える高齢者の移動手段の確保

後期高齢者(75歳以上)の免許人口当たりの死亡事故発生件数が高い状況にあり、高齢者ドライバーやその家族だけでなく、広く県民の安全・安心な生活環境を確保するために、高齢者の移動手段の確保が重要になる。

## &lt;課題3&gt;深刻な交通事業者の人材不足に対する早急な対応

全国的に交通事業者の人材不足が慢性的な課題となっており、本県においても運転士不足によるサービスの見直しや縮小が相次ぐなど運転手の確保や生産性向上が喫緊の課題になっている。

## &lt;課題4&gt;地域公共交通の情報面でのシームレスな環境整備

観光地への二次交通が整備されていたとしても、それが情報として検索可能な状態になっていなければ「運行していないことと同義」であり、経路検索サービス等での情報発信が重要になっている。

## &lt;課題5&gt;地域公共交通データの整備及び地域公共交通計画の策定を通じた政策立案・施策の推進

データの整備等を通じて各地域が抱える問題・課題を明らかにし、関係者が密に連携した政策立案や施策の推進を進めることが求められる。

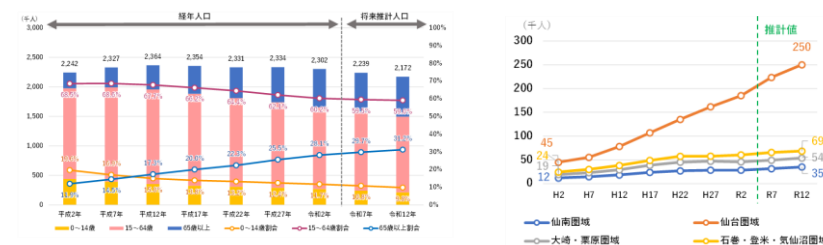


図 圏域別の75歳以上人口の推移

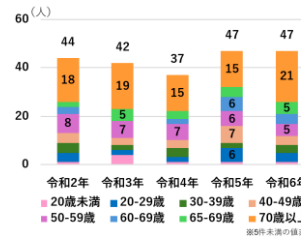


図 年齢別死亡事故の推移

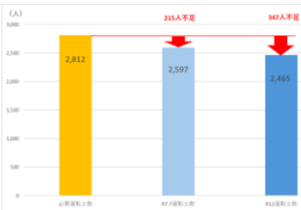


図 バスの運転士数(現状・見込み)

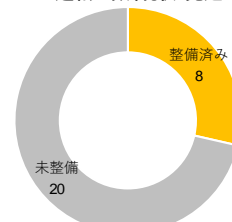


図 県内市町村のGTFSデータ整備状況

# 宮城県地域公共交通活性化協議会

## 調査内容

### 【事業評価時点で完了している内容】

1. 地域特性の整理等
2. 公共交通の実態等の整理
3. 各種調査の実施
  - (1) 各種アンケートの実施・分析
  - (2) 交通ICデータの分析
  - (3) 携帯位置情報データの分析
  - (4) 広域路線を対象とする定量評価
4. 現計画の検証
5. 計画の策定
  - (1) 骨子の作成
  - (2) 計画素案の作成

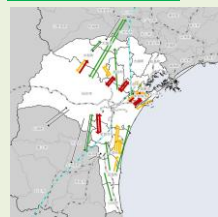
### 【今後予定している内容】

5. 計画の策定
  - (1) 協議会意見・パブリックコメントの反映
  - (2) 協議会開催(残り1回)

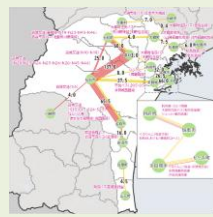
## 調査結果概要

- ① 既存の国勢調査結果だけでなく、携帯位置情報等の分析も行い「行政区画を超えた人流」について可視化を行った。これに対応する現在のサービス供給状況についても整理し、課題を調査した。
- ② アンケート調査等により、サービス提供者である市町村・交通事業者が抱える課題や主な移動先である高校・病院における地域公共交通に対する方針等について調査を行った。

### 定量分析



広域移動状況の調査



サービス供給状況の調査

など実施

### 定性分析

**市町村:** 広域路線の維持が必要との意見が多数も、半数以上の市町村が「5年以内の維持が困難な路線がある」と回答。県には財政支援だけでなく広域的な調整役としての機能や制度等の勉強会といった人材育成支援も期待するとの意見があった。

**交通事業者:** 特にバス事業者から「運転士不足が最大課題」との声があり、広域路線の維持困難化の直接的要因になっているとの指摘もあった。仕業の合理化からスクールバス等他分野との連携促進を進めて欲しいとの意見もあった。

**病院:** 全ての圏域で自家用車での来院が多い状況にあるが、駐車場のキャパ不足等もあり特に仙台近郊の病院から公共交通の利用を促進したいとの回答があった。

**高校:** 事故防止や送迎による道路混雑等の防止の観点から半数以上の高校が「通学時の公共交通利用を促進したい」と回答。促進を考えない理由には「そもそも通学に利用できる公共交通機関がない」と回答した高校も存在した。

#### <基本的な方針>(案)

- 方針①: 広域的な地域公共交通の維持・活性化  
方針②: 地域交通の利便性確保に向けた支援  
方針③: 多様な関係者との連携推進

#### <目標>(案)

目標①: 地域公共交通の最適化

- ① 地域調停線系統の収支、② 公共交通で継続する市町村数、③ 公共交通利用者数、④ 地域公共交通計画の策定市町村数

目標②: サービス提供体制の安定化 ① 乗合バス事業者の継続数

目標③: DX活用による交通サービス効率化

- ① GPRSデータ整備市町村数、② Googleマップ掲載事業者・市町村数

### 圏域ごとにサービス品質目標を設定

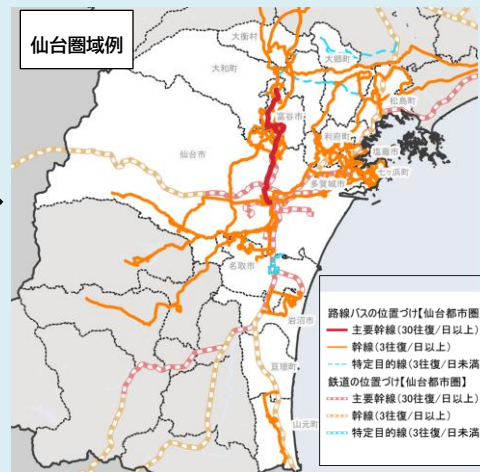


図 目指す地域公共交通のサービス品質(案)

## 今後の取組みについて

### 【スケジュール(予定)】

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| ○1月中旬 第4回協議会開催(書面) | ○3月下旬 第5回協議会開催  |
| ○2月中旬 パブリックコメント実施  | ○3月下旬 公共交通計画の決定 |
| ○3月上旬 圏域別検討会開催     |                 |

### 【地域の交通の目指す姿】

広域的な地域公共交通の維持・活性化、地域交通の利便性確保に向けた支援、多様な関係者との連携推進により、「誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会」の実現を目指す。

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和 7 年 1 2 月 2 4 日

協議会名：宮城県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域公共交通調査事業（地域公共交通アップデート化推進事業（広域型））

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画等の計画策定等に向けた方針
<p><b>【事業内容】</b></p> <p>1. 地域特性の整理等</p> <p>2. 公共交通の実態等の整理</p> <p>3. 各種調査の実施</p> <p>4. 現計画の検証</p> <p>5. 計画の策定</p>	<p>計画に位置付けられたとおり、適切に実施された（される見込み）。</p> <p>今回の事業で実施した調査分析等によって、人口推移等の基礎データが網羅的に整理されたほか、移動需要やそれに対応する広域路線のサービス供給状況（運行本数等）が可視化され、圏域ごとの交通特性についても明らかになった。</p>	<p>将来推計人口等の分析結果から、運転士不足の深刻化や通学・通勤移動者の減少が予見されることから、広域路線の維持は増々厳しい環境におかれることが予想される。</p> <p>こうした中で、広域的な地域公共交通ネットワークを維持するためには、圏域ごとに目指すべきサービス品質を設け関係者間で連携しながら地域公共交通に関する施策に取り組むだけでなく、県全体でデータを活用した「地域公共交通の最適化」、運転士確保や生産性向上による「サービス提供体制の安定化」、経路検索サービスを活用した情報発信の強化の「DX活用による効率化」を目指す必要がある。</p> <p>上記目標を達成するための各種事業を計画へ位置づけ・実行し「誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会」の実現を目指す。</p>
<p><b>【結果概要】</b></p> <p>①既存の国勢調査結果だけでなく、携帯位置情報等の分析も行い「行政区域を越えた人流」について可視化を行った。これに対応する現在のサービス供給状況についても整理し、課題を調査した。</p> <p>②アンケート調査等により、サービス提供者である市町村・交通事業者が抱える課題や主な移動先である高校・病院における地域公共交通に対する方針等について調査を行った。</p> <p>③今後、パブリックコメントや協議会での協議を経て、計画最終案をとりまとめる。</p>	A	
<p><b>【二次評価】</b></p>		